

# ほっと♡ぼらんていあ

発行：  社会福祉法人 曾於市社会福祉協議会

平成 24 年 3 月 15 日 発行

〒899-4101 曾於市財部町南俣 504-1 (財部保健福祉センター内)

TEL : 0986-72-0460 FAX : 0986-72-0425

E-mail : [sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp](mailto:sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp)

URL : <http://soo-shakyo.or.jp/>

第7号

## 【震災1年 ボランティア】関心保ち支援の継続を

東日本大震災発生を受けて、岩手、宮城、福島 の 3 県には全国から多くのボランティアが駆け付けて、がれき撤去や炊き出しに力を発揮した。だが、時間がたつとともに減り続け、今では心細い状態になっている。

今年 1 月、3 県の各市町村の災害ボランティアセンターを通じて活動した人の数は、ピーク時の 15 分の 1 程度に激減した。被災者から「忘れられてしまうのでは」との声も聞こえてくる。

被災者の生活再建はこれから正念場を迎える。震災当初からのがれき撤去などに加え、仮設住宅での環境整備や見回りによる安否確認、防犯活動などボランティアのニーズも多様化している。

支援を途切れさせてはならない。被災地のニーズに関心を持ち続けて、それぞれができる範囲の支援を心がけたい。

全国社会福祉協議会によると、震災直後から今年 2 月下旬までに、東北 3 県の市町村のボランティアセンターに登録して活動した人は、延べ 93 万人に達した。月別で見ると、昨年 5 月の 17 万 1800 人をピークに、4～7 月は 10 万人を超えた。しかし、その後は減少の一途で、今年 2 月は 1 万人を少し超える程度にとどまりそうだという。

被災地では、被災者の多くが避難所から仮設住宅や「みなし仮設住宅」と呼ばれる民間の賃貸住宅に移った。生活再建に向けた前進ではあるが、一人一人の生活に行政や支援団体の目が行き届きにくくなった一面は見過ごせない。

特に孤立が心配される高齢者への声掛けや買い物支援のほか、被災者の悩みに耳を傾け、それを専門家につなぐといった役割は、医療や福祉の専門知識がなくても務まるし、今後ますます重要になる。ボランティアのマンパワーによるきめ細かな目配りが求められる。

ボランティア活動に参加しやすい社会の体制づくりも課題だ。一定期間、腰を据えて活動できるような企業の休暇制度や大学の単位認定制度なども拡充を図りたい。震災 1 年を機に報道などで被災地の様子が細かく紹介されれば、ボランティア希望者も再び増える可能性はある。だが、必要なのは一時的な増加ではなく、ニーズに合った息の長い支援である。どうすれば被災地の復興を後押しできるのか、今あらためて考えてみたい。

【南日本新聞 社説(平成 24 年 3 月 6 日)より引用】

## 被災地での災害ボランティアセンターの状況

### ○災害ボランティアセンターの設置状況

2 月 27 日現在、東日本大震災の被災地における市町村災害ボランティアセンター設置数は、被害の大きかった 6 県で 69 センターとなっています。

( 岩手県 24, 宮城県 12 (うち仙台市 1),  
福島県 28, 茨城県 1, 栃木県 3, 長野県 1 )

なお、被災地の状況に応じ、活動を休止しているところ、また土日など曜日を限定して活動しているところなど、センターの活動状況はさまざまです。

被災地でのボランティア活動に参加する方は、ホームページよりご確認の上、必要に応じて現地センターに電話等でご照会、ご相談をお願いします。

### ○東北 3 県におけるボランティア活動参加者数

【2 月 19 日(日)まで】

- ・岩手県 33 万 900 人
- ・宮城県 45 万 3700 人
- ・福島県 14 万 5800 人



延べ **93 万 400 人**

※各地のボランティアセンターに登録のうえ、活動に従事した人数。



詳しい内容は、ホームページをご覧ください。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

<http://www.shakyo.or.jp/index.htm>

今回は、ボランティア活動の取り組みとして、ボランティア協力校2校の活動をご紹介します。



ボランティア協力校  
**大隅南小学校**

**被災地のみなさんを応援したい！**

大隅南小学校児童会では、自分たちで野菜を育て販売したお金を被災地に届けようと、校内の花壇を利用して野菜作りに取り組みました。

野菜作りを始めてから、テレビで流れる震災のニュースを以前より意識するようになり、学校で友達と震災の話をする事が多くなりました。野菜作りは思っていたよりも大変でしたが、「被災地のみなさんを応援したい」という思いで、ひとつひとつ大切に育てました。近くで花の無人販売をしている方から棚を借りて、PTAにも協力してもらい、児童会の無人販売所を設置しました。収穫が遅れて大きくなりすぎた野菜もありましたが、地域の方はたく



さん買って下さいました。「この前買ったトウモロコシ美味しかったよ」と声をかけられたり、地域の方が「これもここで売っていいよ」と野菜を持ってきて下さったりして、地域の方々とのつながりが深まったような気がします。

3月8日、売上の一部を東日本大震災の義援金として日本赤十字社鹿児島県支部曾於市地区大隅分区に届けました。少しでも被災地のみなさんの力になって欲しいです。



ボランティア協力校  
**光神小学校**

**小さな私たちの大きな『夢』**

本校は児童数が12名の極小規模校で、最上級生は4年生です。そのため、児童会活動は3・4年生5名で行っています。

本校の大きな取組の1つが「ちょボラ！運動」です。遠足の際の道路のごみ拾い、公民館への花の提供等を行っています。

また「ペットボトルキャップで世界の子もたちにワクチンを届けようキャンペーン」というボランティア活動も行っています。平成21年の学級PTAの際に、保護者から出された情報がきっかけとなり、児童会が中心となって、全校生徒、保護者、職員、地域へ…と次第に大きく広がりました。この趣旨に賛同して下さったスクールガードリーダーや末吉交番の警察官の方々、消防団長さん、各自治会長さんなども呼びかけをして下さり、回収量も増えています。年度末には、卒業記念の思い出作りとして、6年生がデザインした文字やイラストをペットボトルキャップで作りました。今年は、卒業生がいないため、3・4年生で「人権の花」運動の一環としてペットボトルキャップで『ひまわり』を作りました。

小さな12名の小さな取組でも、顔も知らないたくさんの子もたちを救う、大きな取組につながることを願っています。本校の合言葉の一つ『継続は力なり』をこれからも実践していきます。



 <b>光神小実績</b>	平成21年度…136kg (34名分)
	平成22年度…408kg (102名分)
	平成23年度…600kg (150名分)

集めたキャップは曾於市社会福祉協議会へ！子どもたちの想いを届けました！



曾於市立光神小学校 教頭 鹿屋 純一

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

**ボランティア活動保険**

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震など天災によるケガも補償  
(天災タイプご加入の場合)

年間	Aプラン…280円
保険料	Bプラン…420円
天災タイプもあります。	



※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しております。お問い合わせ・お申込みは、右記の各地域ボランティア・市民活動センターをお尋ねください。

**ボランティアに関するお問い合わせは  
あなたのまちのボランティア・市民活動センターへ**

ボランティア活動保険  
について知りたい

ボランティアを  
してみたいけど・・・



ボランティアを  
お願いしたい

社会福祉法人 曾於市社会福祉協議会

- 財部地域ボランティア・市民活動センター TEL 0986-72-0460
- 末吉地域ボランティア・市民活動センター TEL 0986-76-2224
- 大隅地域ボランティア・市民活動センター TEL 099-482-3013